



稲わら焼き

ELM周辺・唐笠柳地区で実施!



稲わら活用Win-Winモデル事業 稲わら収集出発式



稲わらロールを持ち上げる市長

稲わらを収集して販売する組織や業者の育成・確保を図り、地域で持続的に稲わらの焼却防止・有効活用に取り組めるモデルを形成する「稲わら活用Win-Winモデル事業」の稲わら収集出発式が9月30日、唐笠柳地区の田んぼで行われました。

同地区は水田の近くに住宅地や商業施設が立地していることからモデル地区に選定され、地区内の約29.5ヘクタールの水田で市内のコメ農家と野菜農家の2人が収穫後の稲わらをロール状にして集めます。

佐々木市長は「昔は風物詩とされていたが、今は子どものぜんそくやアレルギー、二酸化炭素の排出など様々な観点から見てもマイナスの部分が多い。まずはモデル地区から事業をスタートさせ、継続して取り組んでいくことで、稲わら焼きゼロを目指したい」と抱負を話しました。

稲わら収集！ ミニロールベアラを貸し出し

10月7日、稲わら活用Win-Winモデル事業を活用して稲わら収集を行う山口雅彦さんらに対してミニロールベアラの貸し出しが行われました。

山口さんは、同事業のモデル地区内で農業を営んでおり、約10年前から水田にすき込む方法で稲わらを処理していたそうです。しかし、稲わらを多くすき込むとメタンガスが発生したり、すき込みを行った水田に作付した稲の生育が悪くなるといったことがおこり、すき込みでの処理に限界を感じていました。

山口さんは「稲わらの処理のみを考えた場合、焼いて処理するのが1番楽な方法だが、健康被害や環境への影響などを考えると、ロールにして回収した方が良いと思う。今年度はモデル地区のみでの事業実施だが、将来的には西北五地域全体で稲わら収集に取り組んでいく必要がある」と話しました。



ミニロールベアラを操作する山口さん

皆さん！稲わらミニロールを活用してみませんか？



稲わら活用Win-Winモデル事業で収集した稲わらミニロールを1個400円で販売しています。購入を希望する方は下記問い合わせ先までご連絡ください。



稲わら活用Win-Winモデル事業に関する問い合わせ先 農林水産課 内線2514